

同志社人として生きる

八田 英二

奨励者紹介〔はった・えいじ〕

学校法人同志社総長・理事長

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びなくて、永遠の命を得るためである。

(ヨハネによる福音書 3章16節)

悲しい出来事

ご紹介にあずかりました学校法人同志社総長・理事長の八田と申します。同志社総長は初代が新島襄先生、第16代が松山義則先生、第17代が大谷實先生、私が第18代となります。昨年4月から第18代総長・理事長として同志社に何らかの貢献ができないかという思いで職務を遂行させていただいています。本日は「同志社人として生きる」というお話をさせていただきます。入学式でお迎えする時には、同志社人となっていただきたいと、卒業式でお送りする時には、同志社人としてこれからの社会での活躍を、というお話をしておりますが、本日は新入生の方も多いため私の考える同志社人とは、ということ短い時間ですが、お話しさせていただきます。「同志社人として」とは、同志社の卒業生としてのアイデンティティと言えるかもしれません。

ところで皆さんは、大学で一晩過ごされたことはあるでしょうか。理工学部の先生方は夜中から朝まで実験で過ごされることがあるかと思えます。私は現役のエconomics部の教授ですが、文系の先生が大学で朝まで過ごされることはあまりないと思えます。私は1度だけ朝まで過ごしたことがあります。2005年4月25日の夜から26日の朝までを大学で過ごしました。2005年4月25日に何があったか。若い学生の方はご存知ないかもしれません。逝去者追悼礼拝の案内がありますが、JR福知山線の脱線事故があったのが2005年4月25日でした。その日は大学では朝から会議があり、会議中、10時を過ぎた頃、第一報が入りました。「JR福知山線の尼崎駅手前で事故があった」と。最初は置き石が原因だろうとJRが発表しましたが、電車の脱線事故でした。最終的には、107名の乗客が亡くなられた大事故でした。そのうち「同志社の学生も入っているらしい」という一報が入りました。大変なことだ、と会議を急遽止めました。当時、私は同志社大学長をしていましたので学長室でテレビを点けますと、「何名かが亡くなった」と。3名の同志社大学の学生が亡くなりました。文学部1名、社会学部1名、法学部1名で、3名とも女子学生でした。30数名の学生も怪我をしました。あの時は、京田辺駅で何両かのうち後ろの2両が切り離されるため、後ろの車両に乗ると京田辺駅で前に乗り換ええないといけないということで、かなりの学生が2講時の授業に出るために前方の車両に乗っていました。1両目と2両目、死傷者をたくさん出したところに同志社大学の学生たちが乗っていました。最初は何名、怪我人が出たか分からず、学長室でテレビを見てみると、大変な状況が判明していき、次の日の朝まで学長室にて徹夜で連絡等をしたのが4月25日か

ら26日にかけてでした。その時、副学長と一緒に夜中から朝まで寝ずに情報収集にあたりました。結局、悲しい結果となりました。

次の日から亡くなられた学生のご両親のところにまいりました。ある学生のお母さんが「うちの子は関西大学附属の高校出身でした。ただ同志社に行きたいというので同志社にお世話になったけれども、関西大学に行っていたらこんなことにならなかった」と言われた時は一番堪えました。そういう事故があったのが今から13年前です。学長として一番辛い思いをした、その時のことが、いつも4月25日が近づくと思い出されます。本来なら、この3名の方も4年間、同志社大学で過ごし、同志社人として大学を送り出してははずでした。3年後、4年後に卒業された方の中には、怪我をして両足を切断され、車椅子で卒業式を迎えられた方もおられました。その原因になった脱線事故を忘れることができない、いつも4月25日の前になると感慨深く思い出します。

その少し後、経済学部の学生が近鉄バスの夜行バスに乗って高速道路で東北へ帰省途中に、そのバスが横転して亡くなられました。その学生は1年生でした。4月に1年生3名、2年生1名が亡くなられた。毎年4月25日前後に、追悼礼拝があります。今、時が流れ、事故が風化しつつあるように思います。JR福知山線脱線事故でどれだけ同志社が悲しい思いに包まれたか、風化させてはいけないと思っています。

キャンパス整備

2013年からは文系の学生たちが今出川校地に帰ってきました。文系の学生にとって京田辺校地は、入学式か、クラブ活動以外には行っていただく機会がありませんし、京田辺校地と今出川校地は物理的な距離がありますから、京田辺校地には関心があまりないかもしれません。今出川校地に文系の1、2年生の学生を移す決断をしたのは、私が学長の時でした。2013年4月から京田辺校地と今出川校地は、文系と理系・文理融合の学部で別々になりました。それまでは1、2年生の文系学生は京田辺校地に通い、接触があった。それが、完全に縦割りで京田辺校地と今出川校地に学生が分かれてしまう。それでは同志社大学の卒業生としてのアイデンティティはどこで保たれるのか。縦割りで二つのキャンパスに分かれてしまうことで、同志社大学の学生としてのアイデンティティ、共通の基盤が物理的になくなるのではないかと学内では問題になりました。両キャンパスの学生がサークル活動以外にも交流できる工夫をしよう、仕組みをつくろうと学長の時に試みました。同志社のアイデンティティは、建学の精神、教育理念を共有することで保たれる。これを強調し、これに触れていただく仕組みや環境をつくることによって、両キャンパスが縦割りで学生が離れてしまっても十分アイデンティティが生まれるのではないかと考えています。

同志社人とは

「同志社人」とは何か。建学の精神、教育理念に基づいての教育、特に知的な教育はもちろん、もう一つの部分、人格形成が行われる、それによって同志社人が育成されていくのではないかと考えています。大学は二つの大きな社会的使命をもっています。一つは知識を伝達すること、創造すること。私は経済学部の教員ですから経済学に関して経済学部の学生に教えます。同じ経済学の知識は、京都大学でも神戸大学でも大阪大学の経済学部でも教えます。同志社大学の経済学部の学生が卒業時に身につける経済学の知識と、国公立、他の私立大学の経済学部の学生が身につける知識に大きな差はありません。

同志社大学の経済学部卒業生と京都大学の経済学部卒業生において、経済学部の卒業生についての差はないと思います。ではどこに差があるか、その差は何か。経済学とか一般知識の差ではなく、人格形成をどこで行ったかの差だと考えています。知識の伝達、知識の教授とともに知恵の部分の養成、この二つが大学の社会的使命だと思っています。知恵の部分、これをどのように自らのこれからの人生、自らの幸福、人類の幸福のために養成していただくか、人格形成こそが大学の大きな社会的使命であると考えています。

新島もそれを強調してリベラルアーツの大学をつくりたいと目指し、教育理念としてもちました。人格形成は価値判断、哲学的な思想が必要となります。新島はそれをキリスト教精神に求めた。それを新島は、日本でリベラルアーツ・カレッジをつくることによって実行したいと考えて日本に帰って来たわけです。そういう新島の熱い思い、キリスト教主義精神に基づいて人格形成をする、それを京都の地、この同志社で実行したいというのが新島の考え方だと思っています。キリスト教主義精神に基づいて良心教育を行い、4年間経験され卒業される方が同志社人であり、キリスト教主義精神に基づく人格形成の場が京都の同志社大学だと考えています。そのために新島精神、新島先生の考え方、同時にキリスト教に関して学生に触れていただきたいと考えてまいりました。

チャペルの役割

今出川校地にはチャペルがあります。神学館やクラーク記念館にもチャペルがありますが、京田辺キャンパスにチャペルはありませんでした。長い間、チャペルをつくるべきだという議論がなされ、2012年、チャペルの建設を計画し、学長退任後、チャペルができました。京田辺キャンパスの正門に入って右手にチャペルがあります。キリスト教主義精神を中心におく同志社としてはチャペルがなくてはならないということで、チャペルをつくらせていただきました。チャペルを使っていろいろなことが行われています。キリスト教主義精神を教育の基盤とする同志社だからこそ、学生にキリスト教に触れていただきたい、新島に触れていただきたい、そのためにできるだけのことをするのが総長の仕事ではないかと思っております。大学でも学長としてキリスト教に触れていただくいろいろな仕掛け、仕組み、環境を整備することを考えてきました。キリスト教文化センターでもそれをやっています。今、同志社大学には2万9000名の学生がいます。このすべての学生に新島裏に触れていただきたい、キリスト教に触れていただきたいのです。リベラルアーツ・カレッジをつくりたいという新島の考えのもとにあらゆる学生生活に教職員がかかわりをもって、新島がどのような生き方をしたか、どのような学生を育てようと考えていたか、キリスト教主義とはどういうものか、理解していただく環境をつくるのが、総長・理事長としての、また教職員の務めではないかと考えています。

メッセージ

学生の皆さんが新島裏に触れる機会はたくさんあります。キリスト教に触れる機会もたくさんあります。同志社の良心教育に触れていただく機会もたくさんあると思います。自らの意志でせっかく同志社にこられたのですから、同志社が提供しているキリスト教主義に基づく良心教育にかかわっていただきたい。それが総長・理事長としての私の願いであります。そういう機会を今後も増やし、教職員にも新島裏の考え

をもとに学生との交流を深めていただきたいと思います。そうであってこそ4年後、同志社人として、社会に出て、それぞれ実り豊かな人生を送ってくださいと言えるのではないかと思います。またそういう学生生活を過ごして「自分は同志社人として同志社で良心教育を受けた」と誇りをもっていただけるのではないかと考えております。

同志社人として育っていただき、「同志社はどんなところか、同志社に入ってこういうことがあった、新島襄の教えはこういうことだった、キリスト教はこういうものだった」と身につけていただき、充実した4年間を過ごしていただいて、「同志社人として」大学から巣立っていただきたいと考えています。

2018年4月17日 今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録